

From: Yoneya Akihiko <yoneya@ieee.org>
Sent: Thursday, April 28, 2005 5:56 PM
To: yoneya@nitech.ac.jp
Subject: 【計測会】メールマガジン第1号

計測会会員の皆様

計測会のメールマガジン（第1号）を送付いたします。[事務局：米谷]

コンテンツ

1. 計測会会長の挨拶
2. 平成16年度の卒業研究、修士論文のリスト
3. 安達公一先生のご退職
4. 計測工学科・生産システム工学科計測コースの今
5. 教員リスト
6. メールマガジン配布に関するお願い

-
1. 計測会会長の挨拶

計測会会員の皆さん

今回計測会の学内在籍の教官有志によってメルマガが創刊されることになりました。計測工学科も1960年の学科創設以来2000人以上の卒業生を産業界に送り出してきましたが大学改革の流れに飲み込まれ、計測という学科名も埋もれつつあります。また、近年は同窓会組織に対する卒業生の意識も大きく変わりつつあります。そのような時期に計測会メルマガが創刊されることは、計測会会員同士の交流と大学関係者との情報交換の場として計測会の発展に大きく役立つことと思います。会員の皆さんからの記事や投稿によって活発な交流の場となることを期待します。

計測会会長 重田友五郎（39年卒）

-
2. 平成16年度の卒業研究、修士論文のリスト

生産システム工学科の計測関連研究室（旧計測工学科に相当）の平成16年度の卒業研究発表審査会が平成17年2月17日に行われました。また、機能工学専攻計測分野（旧計測工学専攻に相当）の修士論文発表審査会が平成17年2月18日に行われました。その時のプログラムのエクセルファイルを添付します。

指導教員名も書かれていますので、学内教員の研究分野についての情報にもなると思います。歴代続いている研究内容もあれば、目新しいものもあります。

卒業研究、修士論文の詳細やコピーの入手に関しましては、担当各教員までお問い合わせ下さいませようをお願いいたします。教員へのアクセス方法はホームページ（5. 教員リスト）を御覧ください。

3. 安達公一先生のご退職

安達公一先生を皆さんはよくご存じだと思います。眼を瞑って思い浮かべてください。少し躓き加減に今にも転がりそうな感じで早足に歩いておられた姿。心優しくいつも学生のごことに心を配りながら、少しぶっきらぼうに、どこかはずかしげに言葉をかけてくれる、シャイな先生。安達公一先生は、東北大学理学部数学科修士課程を修了後名古屋工業大学計測工学科に奉職し39年間にわたって教育と研究に尽力され、平成17年3月31日に名古屋工業大学を定年退職されました。この間、信頼性理論と待ち行列理論についての研究を推し進めながら、教育の面では計測数学演習、システム数理などの確率と応用数学についての教育に尽力されてきましたが授業とゼミにおけるその厳しさは、天下一品でした。安達公一先生が若かりし頃担当されていた講義「計測数学演習」が計測工学科において単位がもっとも取りにくいものの一つであったことは少し古い方であればよくご存じであると思います。そのテーマは当時としては先進的であったマルコフ過程であり、理解するのに我々学生は四苦八苦しました。一度の試験ではまず単位が取れず、平均2回から3回程度の再試験を受けなければならなかったことを思い出します。ゼミでは、静謐の中その心身が発する気が研究室に所属する我々学生を圧倒していたものです。いい加減な準備をしていこうものなら、はげしい言葉が飛んで来ました。

安達公一先生のこのような優しさと厳しさを併せ持った姿勢は定年退職される瞬間まで一貫し、教員・学生ともに真に厳しさと緊張感が失われつつある今の時代、さらにお元気で範を垂れていただきたかったと惜しまれてなりません。

退職後は、適宜大学で授業をなされるとともに、定評ある(?)ドライビングテクニックで日本各地を訪ねられるとのことでした。

あまりスピードを出しすぎないように、あまり飲み過ぎないように、お体に気をつけていつまでも安達公一先生自身であって欲しいと心より願っています。

2005. 4. 25. 大鑄史男

この件に関しますお問い合わせやご意見は
F49 大鑄史男 <ohi.fumio@nitech.ac.jp>
にお寄せ下さいませようをお願いいたします。

4. 計測工学科・生産システム工学科計測コースの今

今号では、計測工学科・生産システム工学科計測コースがどのようになっているかの紹介のみをさせて頂くことにし、その変遷は次の機会にまとめたいと思います。

少し寂しい気はしますが、現在計測工学科は単独の学科という形ではなく、学部におきましては機械工学科の中の一プログラムとして存在しています。機械工学科は次のように3プログラムによって構成されています。

機械工学科

- ①計測物理系プログラム（旧計測工学科、旧生産システム工学科計測コース）
- ②機械系プログラム（旧機械工学科の一部）
- ③エネルギー系プログラム（旧機械工学科の一部）

学生は機械工学科として入学し、2年次になるときに、各プログラムに分属することになります。平成16年度の入学生からこのシステムが適用されていますので、平成20年度入社の代から計測物理系プログラムの学生を世に出していくことになります。

また、大学院は、機能工学専攻の一分野として存続しております。機能工学専攻は次のように4分野によって構成されています。

機能工学専攻

- ①計測分野（旧計測工学専攻）
- ②機構分野
- ③エネルギー分野
- ④エレクトロニクス分野（旧電気情報専攻の一部）

5. 教員リスト

大学のホームページ <http://www.nitech.ac.jp/> から辿っていくと機械工学科および機能工学専攻のページがあり、さらに辿っていくと教員リスト

http://www.nitech.ac.jp/admi_inf/a50/a50_010/staff_keisoku.htm

<http://kinou.elcom.nitech.ac.jp/>

があります。ですので、詳細はそちらの方をご参照下さいますようお願いいたします。

研究者総覧データベースは大学のデータベースで、研究室ホームページは各研究室で作成したホームページです。今年の春に充実を図るだけ図りました。ご意見やご感想などを各研究室までお送り頂けますと、励ましや叱咤激励になるかと思えます。

計測卒の学内教員については次の機会にまとめたいと思います。また、各教員の研究内容や研究室案内などを順次行って行きたいと考えています。

6. メールマガジン配布に関するお願い

計測会のメールマガジンに対する発行人からのお願いやお詫びなどがいくつかあります。

○メールマガジンの配布先について

このメールマガジンは、計測会事務局の方でメールアドレスを把握していて、計測会メールマガジンの受信を不要とされなかった方および東京支部でメールアドレスを登録されている方にお送りしております。ですので、不本意ながら配信できていない会員の方がたくさんおられます。そのような方に皆様から再配信して頂けますとありがたく思います。また、事務サイドで事務局と東京支部とでメールアドレスの重複のチェックができていませんので、重複してメールマガジンを受信された方もおられると思います。ご不便を掛けてまして申し訳ありません。

今回は事務局からの配信に関しましては BCC を用いています。メールの配信方法に関しても現在検討中です。

○メールマガジンの位置付けについて

このメールマガジンは、名工大内の計測会会員によって学内情報を発信したいといったことが動機付けとなり始めることになりました。しかし、メールマガジンの内容は学内情報にとどまらずに、支部情報や会員個人からの情報の発信にも役立てて頂こうと考えています。現構想では年2回程度の送付を予定していますので、それに合わせて記事をご送付くだされば、メールマガジンに組み入れたいと思います。また、記事によりましては臨時のメールニュースとして配布したいと思います。

○お問い合わせ先

メールマガジンの配信停止や配信希望、配信先アドレスの変更につきましては、暫定的なのですが、その旨を記載して頂きまして

F60 米谷昭彦 yoneya@ieee.org

までお知らせ下さいますようお願いいたします。

また、その他の計測会へのご連絡やご意見、ご要望に関しましても、まだ送付先は決まっていないので、米谷までお寄せいただければ、適切なところへ転送するように致します。

○ご意見

先ずは第1号を発刊いたしました。メールマガジンを作っていくのは会員の皆様です。このような記事を書いて欲しいとか、お気づきの点、その他ご意見などをお寄せ頂けると、ありがたく思います。

次号は9月または10月に発行する予定です。次号では、最近の就職事情と題して、学生の就職状況、就職活動の時期や仕方についてもご案内したいと考えております。

○記事募集

メールマガジンに掲載する記事を募集しています。ただし、謝礼は出ません。「素敵なリタイア生活」、「会社設立記」、「同級会報告」など何でも結構です。

発行人：

F49 大鑄史男（おおい ふみお）

名古屋工業大学 おもひ領域

e-mail: ohi.fumio@nitech.ac.jp

F60 米谷昭彦（よねや あきひこ）

名古屋工業大学 しくみ領域

e-mail: yoneya@ieee.org